

氏 名：鈴木 ひとみ
学 位 の 種 類：博士（看護学）
学 位 記 番 号：甲第 256 号
学位授与年月日：2024 年 9 月 17 日
学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 青木 裕見（聖路加国際大学准教授）
副査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）
副査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）
副査 大坂 和可子（慶応義塾大学准教授）

論 文 題 目： 患者の治療において多職種で選択肢とベネフィットとリスク情報をわかりやすく示す方法と Shared decision making への参加意向

博士論文審査結果

審査における主な指摘は以下であった。

治療の意思決定を患者と医療者の協働で行う Shared decision making(SDM) は世界中で政策的な支持を集め、多職種による実践が推奨されている。しかし、患者にとってわかりやすい好みの方で情報を共有することや、多職種で情報提供する意義は明らかになっていない。そこで、本研究は、患者の薬剤治療の治療選択場面において、多職種で選択肢およびベネフィット・リスク情報をわかりやすく伝える方法と患者の意思決定参加への意向との関連を明らかにすることを目的とした。日本に住む 20-60 代の人 (n=941) を対象にオンライン調査を実施した。薬剤治療の選択肢とベネフィット・リスク情報を提示する際は、棒グラフとピクトグラフの使用が推奨でき、表を使用する場合は、棒グラフまたはピクトグラフを含めることが望ましいこと、これらの情報は看護師や薬剤師を含めた多職種で伝えることにより患者の SDM 参加の意向が促進される可能性があることが示された。

審査において指摘された主な事項は、以下のとおりである。

- ・リサーチクエスション(RQ)と分析方法および結果の一貫性を保つこと、その上で結論の表現を再考すること
- ・論文のタイトルの再考
- ・分析に使用しなかった変数について、除外した理由の明確な記述とそれらの変数の記述統計を付録として論文に含めること
- ・概念図で示した変数名を一貫して使用すること
- ・調査方法と対象の特性に関して研究の限界に含めること
- ・RQと仮説に対応させて分析方法を明確に記述し、結果も同様に対応させた記述に修正すること
- ・論文内の文言や、図表、資料内の表現の不十分な点を修正すること

これらの指摘に対して、適切に修正されたことを全審査員が確認した。

本研究は幅広い関連領域の文献検討と複数の調査を積み重ねて取り組まれた研究である。治療選択肢とそれに伴うベネフィット・リスク情報の共有に向けて、患者にとってわかりやすい好みの情報提示方法を明らかにした点や、医師・看護師・薬剤師の 3 職種から

の情報説明によって患者のSDM参加の意向が高まることを明らかにした点は、臨床実践に役立つ知見であり、さらに患者の意思決定支援の研究に寄与できることが高く評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。